

【デンマークでの合同研修を終えて】

I. 社会福祉法人明星会 認定こども園明野保育園 看護師 久保真実

海外旅行の経験は何度かあったものの、先回から時間が経っているためか、世の中のデジタル化に適応する苦勞からこの研修は始まった。まずは現地ホテルとのアプリでのやりとりから e チケットの扱い方、iPhone の eSIM の設定やノートパソコンの仕様確認まで、出発する前から格闘することになった。経由したフランクフルト空港のインフォメーションセンターは対人ではなく、パネルに向かってオンラインで相談、街の地図も電車やバスの時刻表もすべてアプリで確認する必要があった。少し前までガラ携で事足りていた私は、LINE や google map の扱いさえ慣れておらず、同期の研修生に助けられながらようやく合同研修を終えた。

今回の研修生二人は専門分野が似ており、MOMOYO 氏が組んでくださった合同研修の内容は、すでに私の個人研修のテーマに深く関係していた。私のテーマは乳幼児の人権についてだが、個を大切にするデンマークの価値観を知っていくと、乳幼児の人権には相手をする大人の人権も大きく関わっており、乳幼児の人権だけを切り取って考えることはできないと思うようになった。医療・教育・介護と支援を柱とするデンマークでは、税金で国の政策を支持している大人各自が幸せでなければならないと考えられている。大人が幸せであれば、子どもが自らのままの自分でいられるように、大人が責任を持って人と物と空間の環境を整えようと意識する。特別幼児通所施設の職員の、「この子どもたちが自分らしくいられるためには、周りがその子を受け入れるキャパシティを持てる社会になることが重要」との言葉が心に響いた。

個人の意見が大切にされるこの国では、平等・公平という考え方も根付いている。性差・収入・年齢・職業・障がい・役職などにより発言が阻止されたり差し控えたりする必要はない。例えば先生と生徒、実習生と指導医、親と子の関係性であってもお互いの意見は大切にされ、発言する側も責任をもって意見する覚悟を持っている。答えに正解はないというホイスコーレの理念にも表れているように、船を作る際に重要視されるのは取扱説明書ではなく、漕ぎだしていく海の青さや深さや風などを感じて、それぞれの船を作ればよいという。それは豪華客船かもしれないし、筏やカヌーかもしれないし、漁船やボートかもしれない。ありのままの自分でいられるためには、相手を対等に見てお互いを思いやる気持ちを持てる社会であることが欠かせないと学んだ期間だった。



ノーフェンスホイスコーレ ゴミ分別



毎食のビュッフェは早いもの勝ちなところも...



20 年間台所を守る女性シェフのおいしい料理



チアシード ピーナッツバターとベリージャム



朝食



洗濯機&乾燥機 使い方にひとくせあり



ノーフェンスホイスコーレ 左隅の建物が宿泊した「茂木ハウス」



iPhone の使い方を教えてくれた同期生



羽田空港での e チケットチェックイン



フランクフルト空港のインフォメーションパネル

II. NPO 法人北海道こども発達研究センター樽川 児童発達支援管理責任者 根本理恵

羽田空港で財団の方々や 50 回生の先輩に見送られ、楽しみな気持ちが勝っている状態でトランジットであるドイツ・フランクフルト空港へと飛び立った。私自身生まれて初めて海外でどのような景色が見られるのか、どのような考えを持った人に会えるのか、食事は美味しいのか…等様々な胸を膨らませて飛行機に乗っていたもののずっと同じ姿勢で 13 時間座り続ける辛さは想像していた倍以上で、財団が押さえてくれていたフランクフルト空港内にあるホテルにもまともにたどり着けず「こんな調子で個人研修もともかく合同研修も大丈夫か…」と初日から心が折れそうになってしまった。不安な気持ちを抱えたまま翌日のコペンハーゲン向ったのだが、フランクフルトからはあっという間に付き、NFHK に向かうタクシーの外から見える広大な大地が北海道の景色と似ていたり、似たような気温ですぐ緊張はほぐれていった。



合同研修では「デンマークは福祉が充実している」という固定概念が間違っていたことを勉強させられた。そもそも戦時中から国が目指したものが違うこと、国の制度や大きさの違いから福祉についての考え方が違うことを学ぶことが出来た。園や高齢者施設等様々な現場を視察させていただいたが、その現場で働いているペタゴー全員が対象者の「その人らしさ」を大事にしていることを目の当たりにした。それだけではなく、職員間でもそれは反映されていて勤務歴関係なく意見を尊重している様子を見て当事業所でも取り入れる必要があると考えさせられた。Momoyo さんや千葉さんに教えていただいた内容はずっと忘れないと思う。また同期と専門分野が一緒だったこと、自身の学びたいと思っていた内容が盛り込まれていた講義や施設視察ばかりで、帰国後当事業所職員や利用児に汎化出来るものばかりであった。

私はその日に行われた講義や視察でお聞きした内容を報告書としてまとめることに必死で NFHK では自身の部屋から出ることはあまりなく在校生との関わりがあまりなかったのだが、SOSU クラスと一緒に受けた授業をきっかけに在校生から私たちに興味を持って関わりにきてくれ、たくさん話をさせていただいたことが印象に残っている。NFHK という学校に通い始めたバッグランド等を聞き、自身の生き方を一生懸命に探している彼らに尊敬の思いを抱いた。最終日は個人研修に向かうフライトの関係により午前で終了する等通年とはイレギュラーな合同研修であったが、学生たちは「コペンハ

ーゲンで楽しいところはどこか?」「どんなことに興味があるか?」等の学生達に質問された後 Lunch 時間にみんなで情報を集めてくれて GoogleMap の共有をしてくれたり、その後の個人研修で訪問する国の情報を教えてくれる等心優しく、もっと早いうちから在校生との関わりを持てたら良かったと今になって後悔である。

滞在中は私の持っていた変電機が故障してヘアドライヤーが使えなくなったり、NFHK の洗濯機の使い方がわからない等と小さなトラブルがたくさんあり、幸先不安な気持ちが残っていたものの同期生の手助けや在校生が手を貸してくれたお陰で乗り越えることができ、人間の優しさに触れることが出来た。



合同研修で気にかけていただいた在校生、滞在中丁寧に関わってくださった Momoyo さんには感謝の言葉しか出てこない。現在個人研修先のイタリアからこの報告書を書いているが NFHK がどんなに恵まれていた環境だったかを実感させられている。一緒に協力してくれた同期生の久保さん、優しく関わってくれた NFHK のみなさんありがとうございました。